

ZENBUTSU 全仏

No.
609



仏暦2558年5月
[2015年]

CONTENTS

道徳の教科化をめぐる②

一般社団法人在家仏教協会 理事 菅原 伸郎 2

普く衆人に茶を施す ー普茶料理をいただくー

料理人 古川 竜三 4

仏教懇話会懇談朝食会開催 5

厚生年金保険・健康保険制度への加入促進について懇談 6

賛助会員新会員ご紹介 6

寺院が知っておきたい法律知識 7

各地の花まつり 8



公益財団法人



全日本仏教会

WFB (世界仏教徒連盟) 日本センター

「道徳の教科化をめぐる」②

一般社団法人在家仏教協会

理事 菅原 伸郎

(すがわら のぶお)



二〇一八年度から公立学校の道徳教育が「教科」に格上げされる。前号では、通知表に評価が記されることなどを宗教の視点もまじえて紹介した。今回は「愛国心」や「畏敬の念」を考える。

低学年から「我が国」

新しい学習指導要領では、小学一、二年生にも「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと」(傍線は筆者)を教えるようになる。これまでは「郷土の文化や生活に……」となっており、三、四年から「我が国や郷土の……」となっていた。まずは身近な郷土愛

を育んでから「我が国」を教えたのだが、今後は低学年から愛国心を教えるわけだ。

文部科学省は幼いときから国家への帰属心や忠誠心を植え付けたいらしい。しかし、いまは国際結婚や海外移住や二重国籍が珍しくない時代だ。国籍とても絶対ではなく、たまたまの出生による相対的な価値である。もっと大らかでいい気がする。ヤクルト球団のファンたる私は、オランダ領アンテル諸島出身のバレンティン外野手が巨人の日本人投手を打ちのめすことを日々願っている。

もちろん、衛星テレビで大リーグ・ヤンkeesのマー君の活躍を

観て喜んでみいる。彼が日本で活躍していたときから応援していたからだ。見ず知らずの選手なら、日本人であってもさほど関心を持たないだろう。つまり、こうした日本びいきも身近な郷土愛の延長上の話なのだ。

心の奥底まで愛国心に染まりたくないのは、たとえば「カジノ解禁で金もうけを目論む国など、愛せるか」などと批判する権利を留保しておきたいからでもある。良い話が続けば親日に、怪しい話が続けば嫌日に——これが自然な感情のように思う。

愛国心は人類愛に通じるか

一九六六年に中央教育審議会が文部大臣に答申した「期待される人間像」を読み直してみた。道徳教育の今日までを方向付けた基本文書である。

《個人の幸福も安全も国家によるところがきわめて大きい。世界人類の発展に寄与する道も国家を通じて開かれているのが普通である。国家を正しく愛することが国家に対する忠誠である。正しい愛

国心は人類愛に通ずる。》

結構じゃないか、と思う方もおられよう。しかし、この答申が出された時代の背景を振り返ってみたい。同じ六六年には旧紀元節が「建国記念の日」として復活している。続いて靖国神社法案が国会に何度も提出され、君が代の不斉唱などで学校教員の処分も各地で繰り返されていく。紀元節で歌われた「雲に聳ゆる高千穂の……」といった、古色蒼然たる復古主義が背後に見え隠れする。

実は、私には「正しい愛国心は人類愛に通じる」という論理が分からない。本当にそうだろうか。たとえば、イエスは当時のローマ・ユダヤ国家に逆らって十字架の上で隣人愛を説いたはずだ。釈尊にしても、王子として生まれ育った釈迦国を捨てて人類普遍の道を求めた方である。

本来、仏教では「愛」は賞められた言葉ではない。愛執、偏愛、愛着、愛欲、喝愛といった言葉が示すように、執着や煩惱、そして固定観念や排他主義に結びつくからだ。頑固で偏狭な「愛」を乗り

越え、大きな慈悲に至ることこそが釈尊の教えだった。

からいころ

排外主義の懸念

近年の国際情勢、とくに近隣某国の膨張主義を憂えるとき、自衛力を全否定することは難しくなってきた。そうではあるのだが、気になるのはこうした「外圧」を理由に愛国心をことさらに叫び、さらには日本が特別な国であるかのように言い立てる流れである。威勢のいい独善主義がまたぞろ顔を出してきた。

こうした思潮は、近世では江戸後期の本居宣長まで遡る。「古事記」を研究した宣長は、日本を神国と見立て、キリスト教はもろろん、仏教も儒教も「からいころ」として排撃した。その思想は平田篤胤や長州の志士たちに受け継がれ、明治の薩長政権による「廃仏毀釈」へと繋がった。

外来の宗教や思想を排除して何を優先させたのか。教育史をひもとくと、一八九〇年には「教育勅語」が公布された。九年後の文部

省訓令十二号は、公私立学校での宗教教育を禁止し、仏教もキリスト教も学校現場から締め出す。その一方で「神道は宗教にあらず」とし、戦時中は子どもたちに神社参拝を強制した。そして、こうした排外主義は今日も「ヘイトスピーチ」などに生き続けている。

畏敬の念への疑問

道徳が正式の教科に格上げされることで、先生たちは「宗教的情操」にもいつそう真剣に取り組みねばならなくなる。現行の学習指導要領では《人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める》となっている分野だ。

この「畏敬の念」という概念はもともと、アルベルト・シュヴァイツァー博士が諸宗教に通用する価値観として提唱した。日本の教育界でも昭和初期から注目されてきたが、宗教に関心の薄い教師たちにはいかにも難題だったろう。夏の夜空に輝く満天の星を見上げさせてお茶を濁す、といった指導も多かったようだ。

しかし、そもそも、この「畏敬

の念」は宗教的情操の本質なのだろうか。詳しくは拙著『宗教の教科書 十二週』（トランスビュー）の付章をお読みいただきたいが、少なくとも仏教の根本とは違っており、私は考えている。

たとえば、東京・浅草の浅草寺を訪ねると、本堂正面に「施無畏」と書かれた額がかかっている（写真）。畏れ無きを施す、怖がらなくてもいい、という意味だ。畏れの対象になるようなモノは存在せず、一切は無という正しい覚りこそが大切、と教えている。

なるほど、原始・太古にあっては雷鳴も地震も伝染病も夢も、不思議で畏れ多き存在だった。ユダヤ教もヒンドゥー教も、人間の力を超えたモノを日々畏れてきた。



(写真提供：菅原伸郎)

神社の社殿では「畏み、畏み、申す」と祝詞をあげている。

一方、たとえば、孔子は「怪力乱神を語らず」と教えた。イエスは畏れよりも愛を語った。だれよりも二千年ほど前、釈尊はそうした「迷い」からの解脱を説かれている。そんな疑問も多い「畏敬の念」を学校で教え続ける狙いは結局のところ、やはりあの神なからの道なのではないか……とも思えてくるのである。

*

最終回の次号では、道徳教育と仏教者の役割について考える。

プロフィール

菅原伸郎（すがわらのぶお）

一九四一年生まれ。早稲田大学政治学科卒。朝日新聞社で論説委員、大阪本社学芸部長、東京本社「こころ」編集長などを務め、二〇〇三年に退社。東京医療保健大学教授を経て、現在は立正大学講師として「宗教教育論」を担当。著書に「宗教をどう教えるか」「宗教の教科書 十二週」、編著に「戦争と追悼——靖国問題への提言」。

普く衆人に茶を施す

— 普茶料理をいただく —

料理人 古川 竜三
(ふるかわ りゅうぞう)



普茶料理とは

今から約三百五十年前、中国の禅僧隠元禪師が京都の宇治に黄檗山萬福寺を建立し、黄檗宗の開祖となられました。隠元禪師は中国式の禅文化を伝えるとともに、インゲンマメ、スイカ、レンコン、木魚など、さまざまな品を日本にもたらしました。その時一緒に伝わった中国式の精進料理である「素菜」(スーツアイ)が、普茶料理と言われております。

おり、黄檗宗萬福寺を中心とした周辺寺院をはじめ、各地で提供されています。

精進料理と普茶料理

曹洞宗の開祖である道元禪師が留学先の中国で、料理を含めて日常の行い自体がすでに仏道の実践であるという修行の本質を知ったことから、料理すること、食事を摂ることは特に重要視されました。大本山永平寺では料理を支援することが重要な修行のひとつとされ、ここから精進料理が生まれましたと言われております。

精進料理は、室町時代から江戸時代にかけて普及した本膳料理に通じ、また懐石料理は精進料理が

ら派生したものです。現在では豪華な精進料理を提供される場合もありますが、当時は質素で季節の味を取り入れ、作法に従う精進料理の精神が活かされたものであります。

一方、普茶料理は黄檗宗に伝わる精進料理で、中国文化の影響を強く受けています。精進料理が食を修行と見るのに対して、飲食平等の趣旨を持ち、食そのものを楽しむことにもウエイトが置かれています。普茶料理の基本形式は銘々膳を使用せず、席に上下の隔てもなく、長方形の座卓を四名で囲み、一品ずつの大皿料理を分け合って食べます。皿や鉢などに箸がなく、各人の箸で自由に取っていた場合もあります。

料理においても、雲片(野菜の切れ端を炒めて葛寄せ)・麻腐(胡麻豆腐)・油齏(下味をつけた野菜等の唐揚げ)や擬製料理(肉や魚に擬した「もどき」料理)などがあり、精進料理ではあまり用いられない油を使用します。炒めものや揚げ物には胡麻油を使用し、中国風の料理技術が取り入れられて

おります。

こうして普茶料理は黄檗宗の寺院ばかりでなく、料理人や文化人など民間でも広く嗜まれるようになります。民間で行われた普茶料理は、長崎の卓袱料理とも影響し合い、日本風にアレンジされながら次第に変化していきます。さらにはテーブルクロスやガラス製のワイングラス、水差しや中国食器が用いられる事もあり、見た目が鮮やかな独特なものとなっています。



普茶料理抄絵図(提供:古川竜三)

「喫茶去」

— 禅の心を大切に —

隠元禪師は日本における煎茶道の開祖とも言われております。煎茶道は当時の茶道（抹茶）の世界において作法などの形式が確立された反面、本来のおもてなしの心が形骸化された経緯を踏まえ、形式にあまりこだわらず、また当時の最新の中国文化であったことから大いに広まったとされています。

「喫茶去」という言葉があり、「まあ、お茶をおあがりなさい」という挨拶ですが、ここには客人と店主の心が一切執着のない清らかな



普茶料理



取材協力：普茶料理 梵 Bon
<http://www.fuchabon.co.jp/>

一会を意味するものと聞いております。

各地でいただく精進料理も勿論ですが、普茶の禅の心を大切にしたい医食同源の料理で、四季の味をお楽しみいただきたいと思います。是非、ご賞味下さい。

仏教懇話会 懇談朝食会開催

本会の仏教懇話会の懇談朝食会が三月二十五日に、東京プリンスホテル・サンフラワーホールで開催された。

懇談朝食会は、本会とご縁の深い国会議員と政界関係者で構成する「仏教懇話会」の会員と、本会の役職者並びに加盟団体代表者との交流と親睦を目的として行われる。今回は自由民主党、民主党等の会員議員と本会関係者約百名が参加した。

午前七時十五分に開会。齋藤明聖理事長が導師となり「三帰依文」を唱和した後、開会の挨拶。つづいて、加藤精一会長（真言宗豊山派管長・総本山長谷寺化主）からご法話があった。

加藤会長は、ご自身が化主を務める総本山長谷寺のある初瀬が、古から神と仏が同居する地であると、その由来から話し始められた。神仏を尊ぶことと季節ごとに先祖のお墓参りをするのは、日本の美風として私たちは大切にしていきたい。今から約二五百年前にお釈迦さまがお悟りになったことから始まった仏教



ご法話する加藤精一会長

は、人びとの心の平和を求める一面と、さまざまな対立を乗り越える英知とをその根幹としている。すなわち、宗教の対立について見れば、私たち仏教徒はキリスト教やイスラム教といったさまざまな宗教と対立することが無い。また、無神論者や唯物論者とも対立することが無い。それは他の宗教とはまったく違う「中道」という第三の立場に立つことができるからである。私たち仏教徒は、宗教や文化の違いを乗り越えて握手することのできる道を持っているのである。混迷する世界情勢のなかで、「仏陀の和の精神」を基に、私たち仏教徒は世界平和への実践活動に邁進していくことが、これから重要であると話しを締めくくられた。

その後、参加した会員議員と本会役員との懇談が持たれ、午前八時三十分閉会となった。



去る三月十六日に日本年金機構(以下、年金機構)の厚生年金保険部適用企画指導グループ参事役二名(安岡浩和氏、長谷川一平氏)が来局。すべての法人事業所に法律で義務づけられている厚生年金保険・健康保険への加入促進について、本会事務総局と話し合いの場がもたれた。

年金機構側は、全国の寺院に加入を促進させるため、関西圏の各宗務庁等から発行する機関誌等に、厚生年金保険等加入のための記事掲載の協力を要請した旨の報告がなされた。一方で、厚生年金保険等の強制的加入に受け取られかねない加入促進文書が、年金機構中国ブロック本部管内の寺院に通知され、しかもその文書が関西圏や首都圏の寺院にも届いていることが確認された。

本会からこの文書について年金機構側に、なぜ中国ブロック本部がこのような行動をとったのか問いただしたところ、年金機構側は文書の内

容について宗教法人法第二十五条を引用した表記があったことを陳謝したが、法律で義務づけられている以上、加入については今後も推進していくつもりであるとのこと。今後は本会と年金機構との間で、全国の寺院の置かれている現状や、年金機構側の加入促進に関する活動について継続して意見交換していくことを確認した。

賛助会員新会員

団体会員 (敬称略)

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 (サービス業)

一般社団法人 仏教検定協会

株式会社さくら経営 (経営コンサルティング)

ご入会いただきありがとうございます

事務総局録事

3月 (1日~15日)

- 1日 ▶ 民主党2015年度定期大会参加 東京・東京プリンスホテル
- 2日 ▶ 部落解放同盟第72回全国大会参加 東京・日本教育会館
- ▶ 全日本葬祭業協同組合連合会松本氏来局 事務総局
- ▶ さくら相談グループ代表井上氏来局 事務総局
- 4日 ▶ 大和証券(株)訪問 東京・大和証券本社
- ▶ 損保ジャパン日本興亜(株)訪問 東京・損保ジャパン日本興亜本社
- ▶ 朝日ビジネスソリューション(株)渡辺氏他来局 事務総局
- 5日 ▶ 日鐵住金建材(株)訪問 東京・日鐵住金建材本社
- ▶ (株)便利堂西村氏来局 事務総局
- 8日 ▶ 自由民主党第82回定期党大会参加 東京・グランドプリンスホテル新高輪
- 9日 ▶ 朝日ビジネスソリューション(株)渡辺氏他来局 事務総局
- ▶ 仏教NGOネットワーク茅野氏・淑徳大学藤森氏来局 事務総局
- 10日 ▶ 東京都仏教連合会主催 都内戦災者 関東大震災遭難者春季慰霊大法要出席 東京・東京都慰霊堂
- ▶ 全日本葬祭業協同組合連合会主催 葬祭コーディネーターコンテスト出席 東京・アジュール竹芝
- ▶ 参議院自由民主党全日本仏教議員連盟懇親会出席 東京・港区
- ▶ (株)大戸屋ホールディングス訪問 東京・武蔵野市
- ▶ 普茶料理「梵」訪問 東京・台東区
- 12日 ▶ 平成26年度第2回広報委員会開催 京都・浄土真宗本願寺派伝道本部
- ▶ 関西圏記者懇談会開催 京都・下京区

▶ 自由民主党各種団体協議会懇談会出席

- 13日 ▶ 浄土真宗本願寺派訪問 東京・都市センターホール
- ▶ 眞宗大谷派訪問 京都・浄土真宗本願寺派伝道本部
- ▶ 無料法律相談開催 京都・眞宗大谷派宗務所 事務総局

3月 (16日~31日)

- 16日 ▶ 局内会議 事務総局
- ▶ 日本年金機構厚生年金保険部安岡氏他来局 事務総局
- 17日 ▶ 日本テンプレヴァン(株)井上氏来局 事務総局
- ▶ 凸版印刷(株)古屋氏来局 事務総局
- 24日 ▶ 日経BP社鶴飼氏来局 事務総局
- 25日 ▶ 仏教懇話会朝食懇談会開催 東京・東京プリンスホテル
- ▶ 平成28年経済センサス活動調査説明会出席 本会会議室
- ▶ 仏教NGOネットワーク企画委員会出席 東京・庭野平和財団
- ▶ ブルームバークL.P.野原氏来局 事務総局
- 26日 ▶ 文化庁宗務課萬谷課長他来局 事務総局
- ▶ 全日本葬祭業協同組合連合会松本氏来局 事務総局
- 27日 ▶ 眞宗大谷派解放運動推進本部寺田次長他来局 事務総局
- ▶ 東京海上日動火災保険(株)小川氏他来局 事務総局
- ▶ 舞台劇「めぐみへの誓い」鑑賞 東京・自由民主党本部
- ▶ 無料法律相談開催 事務総局
- 30日 ▶ 財団創立60周年記念事業WFB・WFBY日本大会部会 事務総局
- 事前打ち合わせ 事務総局
- ▶ 朝日新聞東京本社社会部藤生氏来局 事務総局
- 31日 ▶ 大和証券(株)佐藤氏来局 事務総局

哀悼 中山静麿師 (日本仏教鑽仰会 理事長) 3月28日遷化 87歳



寺院が知っておきたい法律知識

宗教法人運営のための法律入門⑨

宗教法人と個人情報保護法—その3

宗教法人には個人情報保護法で「個人情報データベース」と定義されている多くの書類に様々な情報があります。そのような書類を取り扱うときの注意事項を述べてみます。

過去帳	利用目的を限定しておきます（例：年回忌のお知らせ）。回向供養等の問い合わせがあっても閲覧させてはいけません。たとえ税務署からの要請であっても閲覧させると秘密漏洩罪の対象となります。これについては昭和57年11月17日付で、法務省人権擁護局長から全日本仏教会宛に閲覧禁止の旨を全国の本会加盟寺院に徹底されるよう、要請がありました。どうしても内容を知らせなければならないときは、筆写して原本証明をしたものを渡します。
現在帳	利用目的を行事案内や信者訪問等に限定しておきます。本人の部分は閲覧可能です。不用なところはすみやかに削除廃棄しておきましょう。
信者名簿	利用目的を行事案内等に限定しておきます。本人の部分は閲覧可能です。不用なところはすみやかに削除廃棄しておきましょう。「寺報」などの機関誌等の発送を業者に委託するときは、秘密保持の契約をするなど、注意が必要です。
墓石簿	墓地埋葬法に関する法律第15条2項で、死者に関係あるものの閲覧を拒んではならないとされていますが、興信所等が家系図作成のためと称して過去帳と同様に閲覧を求めてくる場合がありますので、永代使用权者の同意を得ることが肝心です。
備付書類	宗教法人法第25条において、宗教法人が備え付けておかなければならないとされている書類です。これらは、信者その他の利害関係人から閲覧請求があり、「正当な利益」が確認されても「不当な目的」がある場合は閲覧を拒否できます。また、信者その他の利害関係人以外の者には見せる必要はありません。詳しくは本誌第603（10月）号、第604（11月）号をご覧ください。
寄付者名簿 年 回 表	公表することを事前に明示しておきます。
寺院名簿	宗派以外の者に利用させる場合は、事前にその旨を明示しておきます。宗派以外の者に渡さない場合は、目的外利用を禁止して第三者の利用を禁止する旨、名簿に明示しておきます。
団参や研修会等 の参加者名簿	利用目的を公表しておき、この目的以外には使用してはいけません。

全日本仏教会顧問弁護士 長谷川 正浩 監修



各地の花まつり



神奈川県
横浜市西区仏教会

香川県 観音寺市仏教会



長崎県
長崎市仏教連合会
高見三明大司教がご挨拶



長崎市仏教連合会



香川県 高松市仏教会



群馬県 高崎仏教会